



特251

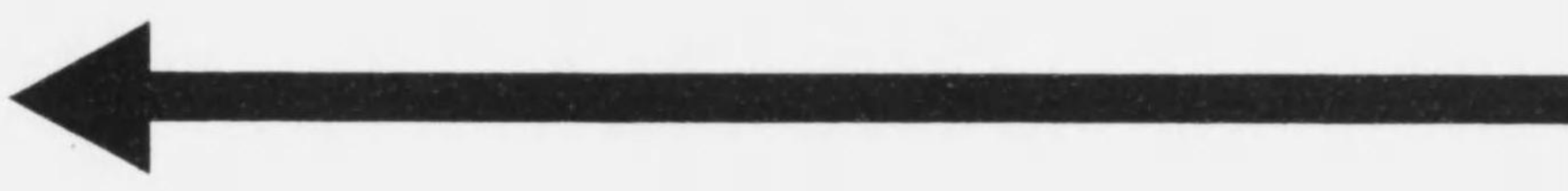
356

十一年十月現行

遠洋漁業獎勵法及附屬法令

海洋漁業振興協會

始



特 251
356



遠洋漁業獎勵法及附屬法令

目次



遠洋漁業獎勵法

遠洋漁業獎勵法施行細則

遠洋漁船檢查規程





●遠洋漁業獎勵法

明治三十八年三月一日
法律第四十號

改正 明治四二年第三七號、四三年第二〇號、大正三年第六號、七年第一一號、
一二年第三一號、一四年第二六號、昭和七年第一四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル遠洋漁業獎勵法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、農商務、
逓信大臣副署)
遠洋漁業獎勵法

第一條 政府ハ遠洋漁業ヲ獎勵スル爲毎年豫算ヲ以テ定ムル金額ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ下付シ其
ノ他必要ナル費用ヲ支出ス

第二條 本法ニ依リ獎勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員又ハ株主ト
シテ帝國法律ニ從ヒ設立シタル法人ニ限ル

第三條 主務大臣ハ遠洋漁船検査規程ニ適合シタル日本船舶ヲ以テ遠洋ニ於ケル漁獵業又ハ漁獲物
處理運搬業ニ従事スル者ニ對シ業務ノ種類、場所、期間若ハ方法又ハ漁獲物ノ處理若ハ販路ニ付
條件ヲ附シ漁業獎勵金ヲ下付スルコトヲ得

第四條 削除

第五條 主務大臣ハ遠洋漁船検査規程ニ適合シタル日本船舶ヲ新造シ又ハ遠洋漁船検査規程ニ適合

シタル日本船舶ニ命令ヲ以テ定ムル設備ヲ施シタル船舶所有者ニ對シ左ノ區別ニ從ヒ漁船獎勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ計畫總噸數百噸以上ノ鋼製ノ船舶ニ在リテハ第一號ノ規定ニ拘ラズ船舶ノ評價額ノ百分ノ二十以内ノ漁船獎勵金ヲ下付スルコトヲ得

- 一 船舶 評價額ノ百分ノ十五以内
- 二 設備 評價額ノ百分ノ三十以内

主務大臣ハ漁船ノ改良ニ關シ適當ト認メタル設計ニ依リ日本船舶ヲ新造シ又ハ改造シタル船舶所有者ニ對シ其ノ船舶新造費又ハ改造費ノ三分ノ一以内ノ漁船獎勵金ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ船舶新造費又ハ改造費ハ第一項ノ設備ノ新造費又ハ改造費ヲ包含ス
同一ノ船舶ニ付第一項及第二項ノ漁船獎勵金ヲ併セ下付スルコトヲ得ス

第六條 遠洋漁船検査規程ハ主務大臣之ヲ定ム

第七條 漁業獎勵金ヲ受タヘキ者第三條ノ條件ヲ履行セサルトキ又ハ每業務期間ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコト業務期間ノ四分ノ三ニ滿タサルトキハ主務大臣ニ於テ正當ノ事由ニ因リ已ムヲ得サルモノト認ムル場合ニ限り獎勵金ノ全部又ハ一部ヲ下付スルコトヲ得

第八條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間之ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ既ニ受ケタル漁船獎勵金ヲ償還シタル

トキ、天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルニ至リタルトキ又ハ主務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間主務大臣ニ於テ正當ノ事由ニ因リ已ムヲ得サルモノト認ムル場合ヲ除クノ外毎年業務期間ノ四分ノ三以上遠洋ニ於ケル漁獵又ハ漁獲物處理運搬ノ爲之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ要ス

第十條 主務大臣ハ漁業獎勵金ヲ受ケタル者又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ヲシテ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ爲サシメ及漁業獎勵金ヲ受ケタル者ノ使用スル船舶又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ニ遠洋漁業練習生ヲ乗組マシムルコトヲ得

第十一條 遠洋漁業ノ指導監督又ハ遠洋漁業練習生ノ養成ノ爲必要ナル費用ハ第一條ニ依ル豫算定額中ヨリ之ヲ支出スルコトヲ得

主務大臣ハ必要ト認メタル場合ニ於テ第一條ニ依ル豫算定額中ヨリ公共團體其ノ他ノ營利ヲ目的トセサル法人ニ對シ遠洋漁船ノ船員若ハ船匠ノ養成又ハ遠洋漁業者若ハ海外出漁者ノ利益増進ノ爲必要ナル費用ノ全部又ハ一部ヲ下付スルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ漁業獎勵金ヲ受ケタル者又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル者及其ノ承繼人ノ業務ヲ監督シ之カ爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ又ハ主務大臣ノ命令ニ從ハサル者ニ對シ獎勵金ノ下付ヲ廢止シ又ハ其ノ既ニ受ケタル金額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

第十四條 詐僞ノ所爲ヲ以テ獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十五條 主務大臣ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ獎勵金ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ因テ得タル金額、第八條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ既ニ受ケタル金額ヲ償還セシムヘシ

第十六條 第十三條及前條ノ償還金ハ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十七條 當業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 當業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第十九條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役、禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附 則

第二十一條 本法ハ昭和二十二年三月三十一日迄效力ヲ有ス

附 則 (大正十二年勅令第三百六十五號ヲ以テ大正十二年八月十五日ヨリ施行)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 (大正十四年法律第二十六號) (大正十四年勅令第二百二十五號ヲ以テ大正十四年六月十五日ヨリ施行)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 (昭和七年法律第十四號) (昭和八年勅令第四十三號ヲ以テ昭和八年三月三十一日ヨリ施行)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

● 遠洋漁業獎勵法施行細則

大正七年四月一日
農商務省令第九號

改正 大正一二年第一九號、一四年農林省令第一九號、昭和八年第三號

六

遠洋漁業獎勵法施行細則左ノ通改正ス (逓信大 區連署)

遠洋漁業獎勵法施行細則

第一條 漁業獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ様式第一號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ願書及添附書類ハ各二通ヲ要ス

一 様式第二號ニ依ル業務目論見書

二 業務ノ種類、場所、期間若ハ方法又ハ漁獲物ノ處理若ハ販路ニ付特異ナル點ヲ説明セル書類

三 總噸數二十噸以上ノ船舶ニ付テハ船舶國籍證書寫及船舶検査證書寫又ハ漁船検査證書寫、總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ付テハ船鑑札寫又ハ漁船検査證書寫

出願人カ法人ナルトキハ前項ニ掲クル書類ノ外定款及社員名簿又ハ株主名簿、組合ナルトキハ契約書及組合員ノ名簿ヲ願書ニ添附スヘシ但シ其ノ法人若ハ組合ハ帝國臣民ノミヲ以テ組織スルモノナルコトヲ定款又ハ契約書ニ於テ明示セル場合又ハ之ニ關スル地方長官ノ證明アル場合ニ於テハ社員名簿又ハ組合員名簿ヲ添附スルコトヲ要セス

第一條ノ二 遠洋漁業獎勵法第五條第一項ノ設備ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニシテ遠洋漁船検査規程ニ適合シタルモノトス

一 保藏設備(冷蔵設備、殺菌設備又ハ防熱設備ニ限ル)

二 無線電信設備

三 無線電話設備

四 副漁具設備

五 漁獲物處理用機械設備

六 活魚設備(主トシテ機械裝置ニ依ルモノニ限ル)

七 音響測深機設備

八 無線電信方位測定設備(以下方向探知機設備ト稱ス)

九 測距器設備

十 時辰儀(船舶検査規程第六十二條又ハ漁船検査規程第五十條ノ規定ニ依リ備フルコトヲ要セサル場合ニ限ル)

十一 六分儀(船舶検査規程第六十二條又ハ漁船検査規程第五十條ノ規定ニ依リ備フルコトヲ要セサル場合ニ限ル)

七

第二條 漁船獎勵金ヲ受ケントスル者ハ様式第三號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添附シ農林大臣ニ之ヲ差出スヘシ但シ願書及添附書類ハ各二通ヲ要ス

一 様式第二號ニ依ル業務目論見書

二 様式第四號ニ依ル船舶件名書

三 仕様書

四 豫定經費明細書

五 船體一般配置圖及左ノ圖面

(一) 船舶ヲ新造スル場合ニ在リテハ船體線圖、船體中央橫截面圖、船體中心線縱截面圖、船體各甲板平面圖、船內平面圖、船體中心線縱截面鋼材配置圖、各甲板平面鋼材配置圖、船內平面鋼材配置圖、裝帆圖、汽機圖、汽罐圖、發動機圖、保藏機械圖、保藏設備圖、無線電信設備圖、無線電話設備圖、副漁具設備圖、漁獲物處理用機械設備圖、活魚設備圖、音響測深機設備圖、方向探知機設備圖又ハ測距器設備圖

(二) 船舶ニ保藏設備、無線電信設備、無線電話設備、副漁具設備、漁獲物處理用機械設備、活魚設備、音響測深機設備、方向探知機設備又ハ測距器設備ヲ施設スル場合ニ在リテハ之ニ關スル前號ニ準スル設備圖又ハ機械圖尙保藏室、保藏機械室、漁獲物處理用機械設備室

又ハ活魚船ヲ施設スル場合ニ於テハ其ノ室又ハ船ノ橫截面圖及縱截面圖、船體各甲板平面圖並ニ船內平面圖

(三) 船舶ヲ改造スル場合ニ在リテハ第一號ニ掲クル圖面ニ付改造部ノ改造前後ニ於ケル對照圖

第一條第二項ノ規定ハ前項ノ願書ニ之ヲ準用ス

第二條ノ二 計畫總噸數百噸以上ノ鋼製ノ船舶ヲ新造スル場合ニ於テ漁船獎勵金及漁業獎勵金ヲ併

セ受ケントスル者ハ様式第三號ノ二ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添附シ農林大臣ニ之ヲ差出スヘシ但シ願書及添附書類ハ各二通ヲ要ス

一 漁業獎勵金ヲ受ケントスル年度ニ於ケル業務ニ關スル第一條第一項第一號及第二號ニ掲クル書類

二 前條第一項第二號乃至第五號ニ掲クル書類

第一條第二項ノ規定ハ前項ノ願書ニ之ヲ準用ス

第二條ノ三 前二條ノ規定ニ依リ獎勵金下付ノ出願アリタル場合ニ於テ農林大臣必要ト認ムルトキ

ハ前二條ノ書類ノ外左ノ書類ヲ提出ヲ命スルコトアルヘシ

一 様式第四號ノ二ニ依ル船舶重量及重心ノ位置計算表

- 二 排水量及横「メタセンター」曲線圖
- 三 乾舷高及横「メタセンター」高計算表
- 四 其ノ他必要ト認ムル書類

第二條ノ四 第一條、第二條及第二條ノ二ノ規定ニ依ル出願ハ住所所在地ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

第二條ノ五 遠洋漁業獎勵法第五條第二項ノ改造ニ對スル獎勵金ハ其ノ改造費中船體ノ改造費カ其ノ船體ノ時價ノ四分ノ一以上ナルトキ又ハ機關ノ改造費カ其ノ機關ノ時價ノ四分ノ一以上ナルトキニ限リ其ノ改造費ニ對シ之ヲ下付ス

第三條 農林大臣第一條ノ願書ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ漁業獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ但シ業務設備又ハ船舶ヲ検査スル必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ指定シタル検査員又ハ管海官廳ヲシテ遠洋漁船検査規程ニ依リ検査ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四條 農林大臣第二條ノ願書ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ漁船獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第四條ノ二 農林大臣第二條ノ二ノ願書ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ漁船獎勵金及漁業獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第五條 農林大臣前三條ニ依リ獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付シタルトキハ其ノ旨ヲ出願人ノ住所所在地ノ管轄地方長官ニ通知スヘシ

第六條 第四條又ハ第四條ノ二ノ許可指令書ヲ受ケタル者ハ農林大臣ノ指定シタル時期ニ於テ船舶ノ新造若ハ改造又ハ設備ノ施設ニ關シ遠洋漁船検査規程ニ依リ管海官廳ノ検査又ハ主務大臣ノ指定シタル検査員ノ検査ヲ受クヘシ

農林大臣必要ト認メタルトキハ第二條又ハ第二條ノ二ノ出願人ニ對シ獎勵金下付ノ許可否ノ處分前ト雖前項ノ検査ノ一部ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第七條 第四條又ハ第四條ノ二ノ許可指令書ヲ受ケタル者其ノ船舶ノ新造若ハ改造又ハ設備ノ施設ニ關スル仕様ヲ變更セントスル場合ニ於テハ農林大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ主務大臣ノ指定シタル検査員又ハ管海官廳カ其ノ變更ニ因リ船舶又ハ設備ノ要部ニ著シキ相違ヲ生セサルモノト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ農林大臣ハ變更ノ程度ニ應ジ其ノ許可シタル漁船獎勵金ノ率ヲ變更スルコトアルヘシ

第八條 第六條ニ依ル検査ヲ終リタルトキハ管海官廳又ハ主務大臣ハ様式第五號ニ依ル竣工證明書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第九條 農林大臣必要アリト認メタルトキハ漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可期間内、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニ對シ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年間何時ニテモ其ノ船舶ノ業務設備検査ヲ執行スルコトアルヘシ

農林大臣ニ於テ業務設備ヲ不完全ナリト認メタルトキハ其ノ補充ヲ爲スヘキ旨ヲ業務主ニ命スルコトアルヘシ

第十條 漁業獎勵金若ハ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間内ニ、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知りタル日ヨリ三十日内ニ其ノ旨農林大臣ニ届出ツヘシ

- 一 船舶カ日本船舶ノ資格ヲ喪失シタルトキ
 - 二 船舶カ滅失、沈没シ若ハ行衛不明トナリタルトキ又ハ解散セラレタルトキ
 - 三 法人若ハ組合カ解散又ハ破産シタルトキ
 - 四 船舶検査證書又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ
 - 五 前各號ノ外獎勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ
- 法人若ハ組合カ解散又ハ破産シタル場合ニハ其ノ清算人又ハ破産管財人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

シ

第一項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ者カ死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ、行衛不明トナリタルトキハ其ノ戸主又ハ家族ヨリ届出ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 漁業獎勵金又ハ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ又ハ死亡シ若ハ行衛不明トナリタルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知りタル日ヨリ二週間以内ニ其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ツヘシ

前項死亡ノ場合ニ於テハ其ノ相續人ヨリ、行衛不明ノ場合ニ於テハ其ノ戸主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ其ノ船舶ヲ讓渡シタルトキハ遲滞ナク様式第六號ニ依ル届書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第十三條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間内ニ、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ船舶又ハ第一條ノ二各號ニ掲ケタル設備ノ現状ニ重大ナル變更ヲ爲サントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ第一條ノ二各號ニ掲ケタル設備ヲ除去セントスルトキ亦同シ

第十四條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ業務目論見書ニ記載シタル業務ノ種類、期間又ハ場所ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ其ノ船舶ヲ使用シテ其ノ變更セムトスル業務目論見ニ從テ爲ス漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ付漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ遠洋漁業獎勵法第九條ノ規定ニ依リ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシムルコト能ハサルトキ又ハ漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ於テ業務ヲ廢止若ハ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者毎業務期間ニ於ケル業務ヲ開始シ若ハ終了シタルトキハ業務主又ハ船長ヨリ遲滞ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ツヘシ

第十七條 業務期間内ニ於テ避難ノ爲又ハ薪水、糧食ノ積入、漁獲物ノ陸揚若ハ船舶、漁具ノ修繕ニ要シタル日數及農林大臣ノ必要ト認メタル航行碇泊ノ日數ハ就業日數ト看做ス

第十八條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者業務期間ヲ終リタルトキハ請求書ニ業務日誌ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出シ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者獎勵金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ竣工證明書ヲ

添ヘ請求書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ無線電信裝置又ハ無線電話裝置ノ施設又ハ施設替ニ對スル獎勵金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ私設無線電信規則第九條ニ依ル檢定證書又ハ假檢定證書ノ寫ヲ添付スヘシ

第二十條 漁業獎勵金又ハ漁船獎勵金下付ノ許可ニ因リテ生シタル效力ハ事業ト共ニスル場合ニ限り農林大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ漁業獎勵金又ハ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者及讓受人連署シ且其ノ事由ヲ證スルニ足ル書類ヲ添付スヘシ

前項ノ認可申請書ハ住所所在地ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

第二十一條 遠洋漁業獎勵法第七條ノ場合ニ於テ獎勵金ノ下付ヲ請求セムトスルモノハ漁業獎勵金請求書ニ其ノ事由ヲ證スルニ足ル書類ヲ添付スヘシ

第二十二條 遠洋漁業獎勵法又ハ本則ノ規定ニ違反シ起訴セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判ノ確定スル迄獎勵金ノ下付ヲ中止スルコトヲ得

第二十三條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ毎業務期間ヲ終リタル日ヨリ二月内ニ業務收支計算書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ事業年度ヲ定メタルモノニ在リテハ其ノ年度ノ終了後二月内ニ之ヲ差出スコトヲ得

第二十四條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年間其ノ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシメタル業務ニ關シ毎年一回様式第七號ニ依ル業務報告書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

前項ノ書類ハ住所所在地ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

第二十五條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ許可期間内、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニ在リテハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年間ハ帳簿ヲ備ヘ其ノ業務ニ關スル收支ヲ記載シ帳簿閉鎖ノ時ヨリ二年間之ヲ保存スヘシ

農林大臣ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ前項ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得

第二十六條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ於テ天災其他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサル場合ニ其ノ船舶ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供シタルトキハ所有者又ハ船長ヨリ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ニ届出ツヘシ

第二十七條 遠洋漁業獎勵法第十條ニ依リ遠洋漁業練習生ヲ乘組マシメタル船舶ノ船長ハ練習生ヲシテ航海及漁獵ニ關スル技術ヲ練習セシメ其ノ品行及技能ニ注意シ每業務期間ニ於ケル業務ヲ終リタル後遅滞ナク其ノ狀況ヲ農林大臣ニ報告スヘシ

第二十八條 遠洋漁業獎勵法第十條ニ依リ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ命セラレタル者ハ指定ノ期間内

ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ

第二十九條 第十條乃至第十四條、第二十三條乃至第二十六條ノ規定ニ違反シ、第十五條ニ依ル認可申請ノ手續ヲ爲サス若ハ帳簿ノ検査ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本則ハ大正七年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正七年法律第十一號ハ同年勅令第三十號ヲ以テ大正七年四月一日ヨリ施行)

本則施行前獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍従前ノ例ニ依ル

附 則 (昭和八年農林省令第三號)

本令ハ昭和七年法律第十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍従前ノ例ニ依ル

(様式)

第一號

漁業獎勵金下付願

今般遠洋漁業獎勵法ヲ遵守シ所有(何縣何郡何村何番地何某所有)ノ汽(帆)船何丸ヲ以テ漁獵業(漁獲物處理運搬業)ニ從事致候ニ付漁業獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添ヘ此段相願候也

年 月 日

族籍住所

氏

名[㊤]

農林大臣 殿

第二號

業務目論見書

一 船種、船名、總噸數、實(純)馬力、進水年月日及獎勵金ノ交付ヲ受ケタル船舶ニ付テハ其ノ年月日

二 業務ノ種類(漁獵業ニ在リテハ漁獵ノ種類)

三 漁獲物ノ種類(處理運搬業ニ在リテハ處理運搬ノ目的物ノ種類及處理運搬ノ方法)

四 第一條ノ二各號ニ掲クル設備及漁獵具其ノ他ノ特種業務設備ノ種類、數及説明

五 業務期間(漁獵ノ種類二種以上ナルトキハ各其ノ業務期間)

六 事業年度ヲ定メタル者ニ在リテハ事業年度

七 業務ノ場所(漁獵業ニ在リテハ各漁獵別ノ業務場所、處理運搬業ニ在リテ航路ヲ定メタルトキハ其ノ航路)

八 漁獲物ノ販路

族籍住所

氏

名[㊤]

農林大臣 殿

第三號

漁船獎勵金下付願

今般遠洋漁業獎勵法ヲ遵守シ遠洋漁船新造又ハ改造(保藏設備、無線電信設備、無線電話設備、副漁具設備、漁獲物處理用機械設備、活魚設備、音響測深機設備、方向探知機設備、測距器設備時辰儀若ハ六分儀ヲ施設)候ニ付漁船獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添へ此段相願候也

年月日

九 船員職務別及員數(漁業獎勵金下付出願ノ場合ニハ海技免狀ヲ有スル船員ノ種類、番號及氏名ヲ記シ又船員中外國人アルトキハ其ノ員數)

十 業務豫算

一 起業費

二 收支

三 損益

第三號ノ二

漁船獎勵金及漁業獎勵金下付願

今般遠洋漁業獎勵法ヲ遵守シ遠洋漁船ヲ新造シ漁獵業(漁獲物處理運搬業)ニ從事致候ニ付漁船獎勵金及漁船竣工後一(二、三又ハ四)年間(各年)ノ業務ニ對スル漁業獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添へ此段相願候也

年月日

族籍住所

氏

名理

農林大臣

殿

第四號

船舶件名書

- 一 船種及船名
- 二 船體ノ長、幅、深
- 三 船體材料
- 四 總噸數

五 速力

六 機關(主機關及補助機關)ノ種類、數及馬力

七 第一條ノ二各號ニ掲クル設備ノ種類及數尙冷蔵機械ニ在リテハ其ノ冷却力

八 豫定起工年月日

九 豫定竣工年月日

十 船體、機關(主機關及補助機關)及第一條ノ二各號ニ掲クル設備ノ製造者又ハ改造者ノ住所及氏名又ハ名稱

十一 製造場所又ハ改造、据付若ハ施設ノ工事場所

備考

改造ノ場合ニ於テハ改造ノ前及後ニ區別シテ記載スヘシ

第四號ノ二

船舶重量及重心ノ位置計算表

一 船體部	項 目	重 量 (噸)	船體中央橫截面ヨリ		基 線 上 ヨリ	
			重心ノ距離 (米)	力 率 (米噸)	重心ノ高 (米)	力 率 (米噸)

船 庫	木 甲 板	(口) 木 材	其 他	油 艙	水 艙	釣 臺	壁 機 關 室 及 甲 板 室 圍 欄	斜 橋	舵 及 弧 舵 柄	梁 柱	彎 曲 部 龍 骨	船 側 縱 通 材	縱 通 材

梁 下 縱 通 材	機 關 臺	二 重 底	內 龍 骨	油 防 及 水 防 隔 壁	外 板 及 舷 檣	甲 板 梁 及 梁 枝	甲 板	肋 板	肋 骨	船 尾 骨 材	龍 骨	船 首 材	(イ) 鋼 材

漁撈裝置	錨及錨鎖	方向探知機	無電裝置	索具	電氣裝置	漁艇	端艇	帆布及天幕	配管裝置	副漁具	探照燈	測深機	繫揚裝置

通風裝置	繫船裝置	舷梯裝置	操舵裝置	揚荷機	揚錨機	帆桁	檣	(八) 艙裝及屬具	其他	甲板室	釣臺	錨鎖庫	機關室

空 氣 槽	油 槽	消 音 器	推 進 器	軸 系 裝 置	主 機 關	(イ)主 機 關	二 機 關 部	(ヘ)固 定 壓 艙 物	其 ノ 他	コ ル ク 類	ア ス フ ア ル ト	配 管 裝 置	冷 藏 機

木 材	(ホ)保 藏 設 備	其 ノ 他	塗 料	其 ノ 他	船 底	甲 板	魚 艙	セ メ ン ト 材	(ニ)セ メ ン ト 材 及 塗 料 其 ノ 他	其 ノ 他	甲 板 室	操 舵 室	小 水 槽

第五號

竣工證明書

- 一 獎勵金下付許可ノ目的物
- 二 船種、船名及資格
- 三 總噸數
- 四 機關ノ種類及數

滿載狀態計	其ノ他	漁具	乘組員及其ノ攜帶品	食料品	水	石炭	潤滑油

輕油	重油	海水	清水	空荷狀態計	其ノ他	汽笛又ハ汽角	唧筒	蓄電池	電動機	發電機	補助機關	(口)補助機關	其ノ他

- 五 實馬力又ハ純馬力
 - 六 第一條ノ二各號ニ掲クル設備ノ種類及數
 - 七 竣工年月日
 - 八 製造者又ハ改造者ノ住所及氏名又ハ名稱
 - 九 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 右検査ヲ遂ケ遠洋漁船検査規程ニ合格セルコトヲ證ス
- 年 月 日

第六號

船舶所有權移轉屆

一 本船番號(船舶検査證書又ハ船鑑札記載ノ番號)

二 船種、船名

右ハ年月日遠洋漁業獎勵法ニ依リ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ニシテ今般私共兩人ノ間ニ於テ所有權ヲ授受候ニ付テハ同法ノ規定遵守可仕此段及御届候也

年 月 日

農林省(管海官廳名)印

族籍住所 (賣主) 氏 名

族籍住所 (買主) 氏 名

農林大臣 殿

第七號

業務報告書

- 年度
- 一 船名
- 二 漁船獎勵金交付年月日
- 三 業務ノ種類
- 四 漁獵具ノ種類及數
- 五 從業ノ期間及場所
- 六 出漁日數
- 七 從業者數

八 業務ノ概要

九 收支及損益

右遠洋漁業獎勵法施行細則第二十四條ニ依リ及報告候也

年 月 日

住 所

氏

名

農林大臣

殿

●遠洋漁船検査規程

大正七年四月一日公布
農商務省令第十號

改正 大正一二年第二〇號、一四年農林省令第二〇號、昭和八年第四號

遠洋漁船検査規程左ノ通改正ス(遞信大 臣連署)

遠洋漁船検査規程

第一章 總 則

第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依ル遠洋漁船ノ船體、機關、遠洋漁業獎勵法施行細則第一條ノ二各號ニ掲クル設備及漁獵具其ノ他ノ特種業務設備ノ検査ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 汽船並總噸數二十噸以上ノ帆船ノ船體、發動機及蒸汽機關並船體及蒸汽機關ノ屬具ハ本規程ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外漁船検査規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ汽船又ハ帆船ハ重構船又ハ重甲板船ニシテ漁船検査規程ニ定メタル第二級漁船以上ノ資格ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第三條 遠洋漁船ノ上甲板ニハ海圖室、操舵室、航海用具室、無線電信室、無線電話室、賄室、燈具室、副漁具室、漁獲物處理用機械室、漁獲物處理室及便所ヲ除クノ外甲板室ヲ設クルコトヲ得ス但シ農林大臣ノ認可ヲ受ケタルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四條 遠洋漁船ノ舷側ニハ載貨門ヲ設クルコトヲ得ス

第五條 機關ヲ有スル船舶ニシテ船體ノ大サニ對シ帆面積ノ大ナル帆裝ヲ有スルモノ又ハ機關ヲ有セサル船舶ニシテ帆裝ヲ有スルモノハ長ハ深ノ十倍、幅ノ四・五倍ヲ、幅ハ深ノ二・八倍ヲ超ユルコトヲ得ス但シ打瀬網漁業ニ使用スル機關ヲ有セサルモノニ在リテハ長ハ深ノ十三倍迄ト爲スコトヲ得

機關ヲ有スル船舶ニシテ船體ノ大サニ對シ帆面積ノ小ナル帆裝ヲ有スルモノ又ハ帆裝ヲ有セサルモノハ長ハ深ノ十一倍、幅ノ六倍ヲ、幅ハ深ノ二・八倍ヲ超ユルコトヲ得ス但シ專ラ漁獲物ノ運搬ニ從事スルモノニ在リテハ長ハ深ノ十三倍迄幅ノ七倍迄ト爲スコトヲ得

長、幅、深ヲ相乗シタル數八十五未滿ノ船舶ハ前二項ノ規定ニ拘ラス長ハ深ノ十三倍迄、幅ノ五倍迄ト爲スコトヲ得

検査官吏ニ於テ船體ト壓艫物、帆面積又ハ乾舷高トノ關係ニ依リ復原力充分ナリト認メ且特別ノ補強構造ニ依リ強力充分ナリト認メタルモノハ前三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第六條 遠洋漁船ニ搭載スル壓艫物カ移動シ易キ物質ナルトキハ隔板其ノ他ノ防移装置ヲ爲スヘシ

第七條 第一級漁船以外ノモノニシテ長、幅、深ヲ相乗シタル數百十三未滿ノモノニ在リテハ甲板上ヨリ舵ヲ引揚ケ得ル構造ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舵架ノ構造ヲ特ニ堅牢ト爲スヘシ

第八條 機關ヲ有スル船舶ニシテ船體ノ大キサニ對シ帆面積ノ小ナル帆裝ヲ有スルモノ及長、幅、深ヲ相乗シタル數百十三未滿ノ船舶竝打瀬網漁業ニ使用スル船舶ニ在リテハ適當ノ構造ヲ爲ストキハ起倒シ得ヘキ櫓ヲ用ウルコトヲ得

第九條 操舵裝置ハ船ヲ最強速力ニ於テ航走セシメ舵ヲ最大角度ニ取りテ之ヲ試験シ故障ナキモノナルコトヲ要ス

第十條 長、幅、深ヲ相乗シタル數三百四十未滿ノ遠洋漁船ニ在リテハ海錨一箇以上ヲ備ヘ且「ケツチ」、「ヨール」及「スターナー」以外ノモノナルトキハ船尾ニ隨時ニ小櫓ヲ立テ三角帆ヲ使用

シ得ルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十一條 遠洋漁船ノ舷側ニ棚ヲ設クルモノニ在リテハ充分ニ排水シ得ルノ構造ト爲スヘシ

第十二條 遠洋漁船ノ外板ハ肋骨ヲ建テタル後之ヲ張ルヘシ但シ主トシテ蒸曲肋骨ヲ使用スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條ノ二 機關ヲ有スル遠洋漁船ニ在リテハ隨時ニ後進ヲ爲シ得ルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十二條ノ三 機關ヲ有スル遠洋漁船ニ在リテハ機力ニ依ル唧筒ヲ設ケ機關室及魚艫ニ其ノ吸水管ヲ導入スヘシ

第十二條ノ四 鋼製遠洋漁船ノ船首材、船尾材、龍骨、外板、甲板、肋骨、梁、舵及舵柄ハ材料試験ニ合格シタルモノ又ハ検査官吏ノ適當ト認メタル證明書アルモノナルコトヲ要ス

前項ノ試験ハ造船規程第一編第二章ノ規定ニ依ル但シ鑄鋼製ノモノニ在リテハ抗張試験及屈曲試験ハ検査官吏必要ナシト認メタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十二條ノ五 鋼製遠洋漁船ハ船首材ノ前面ヲ距ルコト船ノ長ノ二十分ノ一ヨリ少カラサル箇所及少クモ機關室ノ前後各一箇所ニ支水隔壁ヲ設クヘシ但シ長、幅、深ヲ相乗シタル數百七十未滿ノ船舶ニシテ機關室ヲ船尾ニ設クルモノノ機關室後部ノ支水隔壁ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條ノ六 鋼製遠洋漁船ノ彎曲部角型ナルモノニ在リテハ肘板ヲ以テ其ノ部ノ肋骨ヲ接續セシ

ムヘシ

第十二條ノ七 活魚船ヲ有スル鋼製遠洋漁船ニシテ其ノ部ニ縱通隔壁ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ部肋骨ノ寸法及外板ノ厚ヲ増ストキハ肋板ヲ省略スルコトヲ得

第十二條ノ八 木製遠洋漁船ノ上甲板ノ甲板室ハ其ノ周圍四箇所以上ニ於テ甲板室上部ニ通スル鐵釘ヲ以テ甲板梁ニ固著スヘシ

第十二條ノ九 燃油槽ヲ甲板上ニ設クルトキハ特ニ堅固ニ之ヲ取附クヘシ

第十三條 漁獲物處理運搬船ニハ處理設備若ハ活魚設備又ハ保藏設備ヲ爲スヘシ

第十四條 船體又ハ機關ノ構造寸法カ本規程ニ該當セサル場合ニ於テモ主務大臣ニ於テ本規程ノ定ムル所ト同一ノ效力ヲ有スト認メタルモノハ本規程ニ適合スルモノト看做ス

第十四條ノ二 船ノ長、幅、深ハメートルヲ單位トシメートル以下ハ木船ニ在リテハ一位、鋼船ニ在リテハ二位ニ止メ其ノ以下ハ四捨五入スルモノトス

第二章 長、幅、深ヲ相乘シタル數百十三未満ノ木製帆船ノ船體

第十五條 本章ニ於テ第一數ト稱スルハ船ノ深ト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ

第二數ト稱スルハ船ノ長、幅、深ヲ相乘シタル數ヲ謂フ

第十六條 前條ニ於テ船ノ長ト稱スルハ甲板梁上ニ於テ船首材ノ後面ヨリ單螺旋推進器ヲ有スル船

舶ナルトキハ舵柱ノ前面迄、其ノ他ノ船舶ナルトキハ船尾材ノ前面迄、舵柱又ハ船尾材ヲ有セサルモノニ在リテハ船尾板ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂フ但シ上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ在リテハ該材下部ノ後面ニ沿ヒテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ之ヲ測ルモノトス

幅ト稱スルハ船體ノ最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ

深ト稱スルハ船體ノ中央ニ於テ龍骨又ハ敷ノ上面ヨリ甲板梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ

第十七條 本章ニ於テ規定シタル寸法及員數ハ最小ノ限度ヲ示シ距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス

第十八條 石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ハ鐵板若ハ亞鉛板ヲ張り又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒豫防ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十九條 吸入瓦斯發動機ヲ据附クルモノニ在リテハ機關室ニ徑二十センチメートル以上ノ通風器ヲ一箇以上設クヘシ但シ検査員ニ於テ之ト同等以上ノ效力アリト認ムル設備ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 甲板ニ設クル機關室口、艙口、載炭口、出入口及其ノ他ノ諸口ノ縁材ハ其ノ高サ甲板上面ヨリ十五センチメートル以上ト爲シ敲釘ヲ以テ梁及縱梁ニ固著スヘシ但シ直接波浪ヲ受ケサル

場所ニ於ケルモノ若ハ特殊ノ水密装置ヲ備フルモノ又ハ第二數五十七以下ノ漁船ニ在リテハ縁材ノ高ヲ減シ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

第二十一條 甲板ニ設ケル機關室口ニハ甲板上面ヨリ四十六センチメートル以上ノ高ヲ有スル圍壁ヲ取附クヘシ

第二十二條 艙口ニハ堅牢ナル蓋板ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ヘキ様覆布及適當ノ縮具ヲ備フヘシ但シ検査員カ覆布ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

甲板上面ノ機關室口、載炭口、出入口及其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋又ハ蓋板及覆布並適當ノ縮具ヲ備フルカ共ノ他水密トナルヘキ装置ヲ爲スヘシ但シ検査員ニ於テ水密ト爲ス必要ナシト認ムル甲板口ハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ諸口ニシテ被蓋ヲ備フルモノニ在リテハ各側ノ縁材ニ徑一センチメートル以上ノ金屬製環一箇以上ヲ敲著又ハ螺著シ綱ニテ締附クルノ装置ヲ爲スヘシ

第二十三條 曲材ハ總テ木目ノ貫通シタルモノナルコトヲ要ス

第二十四條 船體ヲ構成スル木材ハ有害ナル節瘤其ノ他ノ缺點ヲ有セス且充分乾燥シタルモノナルコトヲ要ス

第二十五條 遠洋漁船ニハ船ノ全長ヲ通シテ水密構造ノ甲板ヲ設クヘシ但シ漁業上差支アルトキハ機關室以外ノ部分ニ於テ船ノ全長ノ三分ノ一未滿ハ甲板ヲ設ケサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ支水隔壁ヲ設クヘシ

第二十六條 肋骨ノ截面及心距ハ第一號表ニ依ルヘシ但シ外板ノ厚ヲ増ストキハ其ノ割合ニ應シ截面ヲ減シ又ハ心距ヲ増スコトヲ得

第二十七條 前條但書ノ場合ニ於テ肋骨ノ心距ハ機關室ニ於テハ四十三センチメートル、其ノ他ノ箇所ニ於テハ五十一センチメートルヲ超ユルコトヲ得ス但シ機關室以外ノ場所ニ於ケル距離百五十二センチメートル以内ノ隔壁間ニ設ケル肋骨ニ在リテハ尙其ノ心距ヲ適當ニ増加スルコトヲ得

第二十八條 單材肋骨ノ嵌接又ハ累接ノ長ハ用材ノ深ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

單材肋骨ノ衝接ニハ肋材ト同截面ヲ有スル添材ヲ附シ衝接ノ兩側ニ二箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第二十九條 肋骨ハ龍骨及内龍骨ヲ貫通シ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ但シ敷ヲ用フルモノニ在リテハ十五センチメートル以内ノ心距ニ於テ敲釘ト打込釘トヲ交互ニ用キ肋骨ト敷トヲ緊著スヘシ

第三十條 肋骨ハ蒸曲材ヲ用ウルトキハ適當ニ截面ヲ減スルコトヲ得

第三十一條 活魚船ニ縦通隔壁ヲ設クルトキハ其ノ部分ノ肋骨ノ數ヲ減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ活魚船兩端ノ肋骨ノ截面ヲ増加シ縦通隔壁下部ニ縦通材ヲ取附ケ且其ノ部分ノ外板ノ厚ヲ増スカ其ノ他適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

活魚船内ノ肋骨ハ縦通隔壁ニテ止ムルコトヲ得但シ肋骨ヲ止メタル所ニ於テ百二十九平方センチメートル以上ノ截面ヲ有スル縦通材ヲ附シ船ノ前後二肋骨以上延長セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ隔壁部ニ於ケル肋骨ハ之ヲ左右ニ通セシムヘシ

第三十二條 梁ノ截面ハ第一號表ニ依ルヘシ

第三十三條 梁ノ心距ハ百二十二センチメートルヲ超エサル範圍ニ於テ第一號表ニ依ル肋骨心距ノ三倍以内ト爲スコトヲ得但シ心距百二十二センチメートル以内ニ梁ヲ設クル事能ハサル時ハ肋骨ノ截面又ハ外板ノ厚ヲ増スカ其ノ他適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

第三十四條 梁ハ成ルヘク肋骨ノ上ニ設ケ梁曲材ヲ以テ肋骨ニ緊著スヘシ

但シ梁受材ヲ設クルトキハ適當ニ梁曲材ノ數ヲ減スルコトヲ得

前項ノ梁受材ノ截面ハ七十七平方センチメートル以上ト爲スヘシ

第三十五條 甲板ノ厚ハ第二號表ニ依ルヘシ

第三十六條 甲板ノ幅ハ二十五センチメートルヲ超ユヘカラス但シ適當ナル補強構造ヲ爲ストキハ

此ノ限ニ在ラス

第三十七條 甲板ハ幅十五センチメートル以下ナルトキハ一箇、十五センチメートルヲ超ユルトキハ二箇以上ノ打込釘ヲ以テ梁毎ニ固著スヘシ

第三十八條 甲板ノ側縁ニハ梁壓材ヲ設クヘシ但シ其ノ厚ハ甲板ノ厚ヨリ一・三センチメートル以上大ナルコトヲ要ス

第三十九條 梁壓材ハ敲釘ヲ以テ舷牆柱毎ニ緊著シ打込釘ヲ以テ梁及梁受材ニ固著シ且肋骨ノ間ニ於テ外板ニ固著スヘシ

第四十條 梁壓材ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ二倍以上ト爲シ三箇以上ノ釘ヲ以テ固著スヘシ

第四十一條 外板ノ厚ハ第二號表ニ依ルヘシ但シ肋骨ノ心距ヲ減スルトキハ適當ニ其ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第四十二條 外板ノ厚ハ第二號表ニ依ル厚ヨリ百分ノ五十以上増加スルコトヲ得ス

第四十三條 外板ノ幅ハ三十センチメートルヲ超ユルコトヲ得ス

第四十四條 外板ハ其ノ幅二十二センチメートル未滿ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅二十二センチメートル以上二十センチメートル未滿ナルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅二十七センチメートル以上ナルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ釘ヲ以テ之ヲ固著スヘシ但シ外板ノ幅二十七センチメートル以上ナル場

合ニ於テモ單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルモノ又ハ肋骨毎ニ木釘ヲ用ウルモノニ在リテハ肋骨毎ニ三箇ヲ用ウルコトヲ得

外板ノ縱縁ニ縫釘ヲ使用スルトキハ前項ノ釘ノ數ヲ肋骨毎ニ一箇宛減スルコトヲ得
前二項ノ固著釘ハ肋骨二本置ニ一箇以上ノ敲釘又ハ木釘ヲ用ウルコトヲ要ス

第四十五條 厚三・二センチメートルヲ超エサル外板ハ其ノ縱縁ヲ累接ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第四十六條 彎曲部ノ角形ナルモノニ在リテハ船ノ首尾ヲ通シテ其ノ部ニ外部彎曲部縱通材ヲ設ケ其ノ截面ヲ六十五平方センチメートル以上ト爲スヘシ但シ首尾兩端ニ於テハ適當ニ其ノ截面ヲ減スルコトヲ得

第四十七條 外部彎曲部縱通材ハ肋骨毎ニ敲打ヲ以テ肋骨ニ緊著スヘシ

第四十八條 外部彎曲部縱通材ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第四十九條 「スクリーナー」、「ケツチ」、「ヨール」、「カッター」、「スループ」又ハ「ラッガー」ノ櫓ノ徑ハ長一メートルニ付二・一センチメートルト爲スヘシ

第四十九條ノ二 總噸數二十噸未滿ノ帆船ニハ左ノ屬具ヲ備フヘシ

- 漁業燈 一揃
- 信號旗NC 二旗
- 羅針儀 一箇
- 海水寒暖計 一箇
- 兩色燈 一箇
- 霧中號角又ハ喇叭 一箇
- 救命具 一箇(總噸數十噸未滿ノ漁船ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ)
- 時計 一箇(同上)
- 手用測程具 一組(同上)
- 測深具 一組(同上)
- 晴雨計 一箇(同上)

第三章 發動機

第五十條 發動機ノ純馬力ノ測定ニ付テハ發動機ヲ船舶ニ据附クル前検査員ノ適當ト認メタル純馬力測定器ヲ用ヒ計畫回轉數又ハ之ニ近キ回轉數及適當ナル荷重ニ付二回以上毎回三十分間以上繼續シテ運轉シ毎回一分間ノ平均回轉數ヲ測定スヘシ

前項ニ依リ測定シタル毎回ノ平均回轉數ノ平均數ヲ以テ其ノ發動機ノ純馬力ヲ算出スヘシ

第五十一條 發動機ハ前條ニ依リ純馬力ヲ測定シタルトキノ回轉數ニ一割ヲ増加セル回轉數及前條
ト同一ノ荷重ニ付三十分間以上之ヲ運轉シ支障ナキモノナルコトヲ要ス

第五十二條 農林大臣已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第五十條ニ依ル純馬力測定ヲ爲スコト能ハサル
モノト認メタルトキハ發動機ヲ船舶ニ据附ケタル後検査員ノ適當ト認ムル状態ニ於テ三十分間以
上船舶ヲ航走セシメ二回以上各汽笛ヨリ取りタル示壓圖ニ依リ算出シタル實馬力ノ平均數ニ適當
ナル係數ヲ乘シタルモノヲ以テ發動機ノ純馬力トス

發動機ハ前項ノ検査終リタル後前項ニ依リ純馬力ヲ測定シタルトキノ回轉數ニ一割ヲ増加セル回
轉數ニ於テ三十分間以上船舶ヲ航走セシメ支障ナキモノナルコトヲ要ス

第五十二條ノ二 前三條ノ規定ニ依リ發動機ノ純馬力ノ測定ヲ爲シタル後検査員ノ適當ト認メタル
状態ニ於テ三十分間以上最高速度ヲ以テ船舶ヲ航走セシメ其ノ發動機ノ回轉數ヲ測定スヘシ前項
ノ回轉數ハ計畫回轉數ヨリ一割ヲ下ラサルコトヲ要ス

第五十三條 曲拐軸ハ鍛合シタルモノヲ用ウルコトヲ得ス

第五十四條 諸軸及諸鐸ハ検査官吏ノ適當ト認ムル強力ヲ有スルモノヲ用ウヘシ

第五十四條ノ二 氣笛、吸鑿及架構其ノ他ノモノノ重要ナル部分ニハ鑄巢ノ類ト雖存セサルコトヲ

要ス

第五十四條ノ三 發動機カ一氣笛ナルトキハ氣笛ノ直徑ハ三百七十七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得
ス

第五十四條ノ四 螺旋軸及中間軸ノ接手ニハ鑿接手ヲ用ウヘシ

第五十五條 推力受臺ニハ球軸受ヲ用ウルコトヲ得ス

第五十六條 發動機ノ屬具ハ第三號表ニ據リ之ヲ備フヘシ

第四章 遠洋漁業獎勵法施行細則第一條ノ二各號ニ掲クル設備及漁獵具
其ノ他ノ特種業務設備

第五十七條 遠洋漁業獎勵法施行細則第一條ノ二各號ニ掲クル設備及漁獵具其ノ他ノ特種ノ業務設
備ニシテ本規程ノ規定ナキモノニ付テハ農林大臣ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要シ且船舶ニ之
ヲ施設シタル後検査員ノ適當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ試験シ成績良好ナルモノナルコトヲ要ス

第一號表

材 料 第 一 數	單 肋 材 骨		敲 釘 耗	肋 骨 心 距 耗	梁 耗
	平方 根	平方 根			
以上未滿 —2.4	26	19	8	33	52
2.4—2.7	39	19	8	33	77
2.7—3.0	52	26	8	33	97
3.0—3.4	65	32	8	36	116
3.4—3.7	97	45	8	38	135
3.7—4.0	129	65	10	41	148
4.0—	168	84	10	43	187

第二號表

材 料 第 二 數	外 板 ノ 厚 耗	外 板 ノ 敲 釘 耗	甲 板 ノ 厚 耗
28—40	22	8	32
40—51	25	8	38
51—71	32	8	41
71—99	38	10	51
99—	44	10	51

第三號表
發動機屬具表

名 稱	員 數	摘 要
吸 鈔 彈 環	每氣箱二箇又ハ其ノ未滿 一組	

空氣壓搾機ノ壓搾箱吸鈔彈環	一	壓搾箱一箇每ニ二組	「ヂーゼル」發動機ナルトキ
接續鐸上下螺釘及母螺	一	每氣箱二箇又ハ其ノ未滿 一組	
接續鐸上下ノ黃銅	一	每氣箱二箇又ハ其ノ未滿 一組	
接軸鈔螺釘及母螺	一	每氣箱二箇又ハ其ノ未滿 一組	
噴 油 瓣	一	每氣箱二箇又ハ其ノ未滿 一組	
吸 氣 瓣 及 發 條	一	每氣箱二箇又ハ其ノ未滿 一組	
排 出 瓣 及 發 條	一	每氣箱一箇每ニ一箇	
起 動 用 瓣	一	每氣箱二箇又ハ其ノ未滿 一組	「ヂーゼル」發動機ナルトキ
掃除唧筒又ハ掃除空氣瓣	一	給油唧筒一箇每ニ一組	
給 油 唧 筒 瓣	一	給油唧筒一箇每ニ一組	
冷 箱 唧 筒 瓣	一	給油唧筒一箇每ニ一組	
空氣壓搾機ノ空氣瓣	一	給油唧筒一箇每ニ一組	「ヂーゼル」發動機ナルトキ
塗 水 唧 筒 瓣	一	給油唧筒一箇每ニ一組	
點 火 器	一	每氣箱二箇又ハ其ノ未滿 一組	

電	池	常用電池一箇毎ニ一箇
發	電	常用ノ外一箇
起	動	常用ノ外一箇
同	火	常用ノ外燈一箇毎ニ一箇
電	線	常用ノ外若干
油	管	常用ノ外若干
空	氣	常用ノ外若干
各	種	常用ノ外若干
螺	釘	常用ノ外若干
機	關	常用ノ外若干
室	用	常用ノ外若干
小	道	常用ノ外若干
具	一	常用ノ外若干
	備	常用ノ外若干

備考 一 本表ニ掲ケタル屬具中發動機ノ構造上使用ノ途ナキモノハ之ヲ備フルコトヲ要セス

二 發動機二臺以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ發動機一臺分ノ外之ヲ備ヘサルコトヲ得

附 則 (昭和八年三月二十九日公布農林省令第四號)

本令ハ昭和七年法律第十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十一年十二月廿七日印刷
昭和十一年十二月卅一日發行

(定價二十五錢)

發行人 東京市大森區調布千鳥町六四九 高山伊太郎

印刷人 東京市京橋區築地一丁目十四番地 川橋源三郎

印刷所 東京市京橋區築地一丁目十四番地 仁川堂川橋印刷所

電話京橋三二八二、九〇九二番

東京市麴町區丸之内九ビル四階

發行所

海洋漁業振興協會

電話丸之内(23)五五四七番
振替東京一〇九四七五番

337
649



終